

市町村長の声（愛知県東浦町）

－わが町にとって自治大派遣は大きな意義－



愛知県東浦町
日高 輝夫 町長

地方自治体職員としての成長は、一人ひとりが抱く志とともに、実践的な学びの場によって深まるものです。自治大はそんな成長を支える重要な研修機関であり、東浦町でもこれまで継続的に職員を派遣してきました。その結果、多くの職員が専門性や政策立案力を磨き、町の行政において活躍しています。自治大での経験が、その職員だけでなく組織や地域全体へポジティブな影響を及ぼしています。

現在、東浦町にとって自治大への派遣は、職員一人ひとりを成長させ、町全体を前進させるための非常に意義のある取り組みとなっています。本町からは平成元年から90人以上の職員が研修に参加しており、これまで多くの成果を上げてきました。自治大での研修は、人材育成の一環としての意義にとどまらず、職員としてのキャリアを形成し、自らの可能性を広げる貴重な機会となっています。

自治大では、地方自治を担う人材としての能力を磨くために、幅広い講義や実践型プログラムが提供されています。政策立案力や自治体運営の基礎知識を学ぶだけでなく、実際の事例研究を通じて課題解決能力を培い、理論と実践のバランスを深めることが可能です。さらに、日本全国から自治体職員が集まることで、他地域の状況を知り、交流を通じて新たな視点を得ることができます。この環境は、普段の業務だけでは得られない刺激に満ちており、視野を広げ、自身の可能性をさらに引き出す場となるのです。

実際に、自治大の研修を経験した職員の多くが、帰任後に職場の中心的存在やリーダーとなって活躍しています。政策決定の場面で、自治大での学びを活かしながら意識の高い提案を行う姿勢や、実務において課題を迅速かつ的確に解決し続ける能力は、他の職員にも共有されています。自治大の研修を経た職員たちは、単にスキルを身につけるだけでなく、自治体運営への深い洞察を得、結果として住民の期待に応える行政を実現することができるのです。

そして何よりも、自治大での研修は、個々の職員が持つ可能性を最大限に引き出す場です。普段の業務を少し離れ、全国から集まる仲間たちと共に学び、自分の仕事や町について深く考える時間は、これまでの価値観に新たな風を吹き込み、自身の視野や挑戦の幅を積極的に広げます。「自分にできることは何か」「町をさらにより良くするにはどうすべきか」という問いを突きつけられる環境で、自信と確信を育てながらアップデートしていけるのです。

愛知県東浦町の卒業生からの一言



東浦町職員 U. H
第1部・第2部特別
課程卒業 (R7)

自治大研修は、担当業務とは全く違う分野の話を、その分野の第一人者の方々から聞くことができる、大変貴重な機会だと思います。私は、特に経済学など、実務とは離れた視点だからこそ、物事を俯瞰して把握できる考え方を知り、面白いと感じました。研修を終えた後は、これまでとは違った意識で仕事に取り組めると感じます。何より、共に学ぶ仲間との存在は、かけがいのないものです。寄宿舎では、各地の特産品を持ち寄り、研修の課題や所属自治体での仕事のこと、プライベートなことまで、たくさん話をしました。あまりに楽しかったので、退寮するときは何とも寂しい気持ちになりました。

私が参加した時は、市や都道府県職員がほとんどで、町村職員は少数でしたが、自治体規模に関わらず、多くの人に経験してほしいと思う研修でした。



東浦町職員 Y. K
第2部課程卒業 (R6)

正直に言うと、派遣の話をもらったときは、あまり前向きではありませんでした。お酒もほとんど飲めないし、他自治体の人たちと馴染めるのかな・・・と、不安のほうが大きかったです。そんなふう迷っている、そのあなた。心配無用です。約3か月の共同生活を終えるころには、「まだ自治大に残りたい」「このまま立川で暮らしたい」「みんなと別れるのが悲しくて仕方ない」そんな気持ちになっています。

普段、2日間の研修ですら「長いな」と感じるがありますが、自治大での生活はとても濃く、そして驚くほどあっという間に過ぎていきます。日常業務から少し離れて、改めて学び、考える時間を持つことは、今後の仕事に必ず生きる貴重な経験となります。

自治大には、全国から選ばれた優秀な職員が集まっています。一人ひとりが「自分のやるべきこと」を理解していて、物事がスムーズに進み、かゆいところに自然と手が届く。「このメンバーと一緒に仕事ができたら、どんなことでもできそうだ」そう思われる場面が何度もありました。

自治大、バンザイ。そして、立川に乾杯！